



# 新町西再開発・市民の税金で最大の地権者となった原市政 まじめに営業し生活している地権者を追い出す先頭に

新町西再開発が「人権無視でえげつないやり方」だと多くの批判が挙がるのは第一種再開発事業だからです。一昔前の「地上げ屋」に成り代わって、「法を盾」に反対する地権者を強制的に追い出せる仕組み。その先頭に立っているのが原徳島市政です。

## 市民の税金を二億円も使って

### 生命保険会社ビルを取得

### 最大の地権者にのし上がる

原徳島市政は新町西再開発区域の地権者ではありませんでした。それが一年半前、市民の税金を二億円も使って生命保険会社のビル（新町橋交番横の公園に隣接：土地千㎡）を取得。再開発区域内で最大の地権者にのし上がりました。

取得した「理由」は「川の駅に使うため」。実際に「川の駅」に使うのは「わずか六十六㎡」。要は「最大の地権者」になって、「旗振り役の

先頭に立つ」ために「川の駅を利用した」のが真相です。

## 「地元を支援する」などと

### 「第三者のような顔」をして

### 再開発を推進・原徳島市政

徳島市が行う普通の公共事業なら、入札で競争したり、ナカミも議会で審議しますが、この新町西再開発は「異質」。徳島市をはじめとした地権者が任意加入（地権者の約八十％が加入）している準備組合で、業者（ゼネコンの竹中工務店）が選定されたり、ナカミが決まったりするんですが、議会

## 十二月本会議で採り上げた防犯灯電気代・

### 町内会負担ゼロが復活（LED化とともに）

近隣の町内会から「最近、防犯灯の電気代を、市が全額補助してくれないので困っている（二〇％程が町内会負担）。町内会の運営が苦しい

以前のように全額補助してほしい」という「声」が私の所に寄せられましたので、この「声」を十二月本会議で採り上げました。早速、来年度（四月）から、「防犯灯電気代

町内会負担ゼロが復活（市が一〇〇％補助）」することになりました。併せて防犯灯のLED化も行われることになりました。

要望を寄せていただいた方々から「これで電気代の心配なく防犯灯が設置できます。安心・安全の街づくりが進められます」など、「喜びの声」が挙がっています。

にも諮られないなど、市民の知らない「闇の中」で推進されています。

ところが市議会では「徳島市は地元を支援する立場」などと説明。まるで「第三者のような顔」をしています。実際は「最大の地権者」として再開発推進の「旗振り役」を果たしているのが原徳島市政です。

## 新町西再開発は第一種再開発

### 三分の二同意で強制執行できる

### その先頭に立つ原徳島市政

新町西再開発は第一種再開発事業。地権者の三分の二（六十七％）が同意すれば強制執行できる事業です。徳島市は「計画当初から約八十％が賛成で準備組合を結成（反対は約二十％）」と答弁していますが、反対する地権者（裏面に「声」を掲載）は会を作って、「反対」や「同意しないこと」を拡げる運動をしています。

一昔前は「地上げ屋」が暴力的に立ち退かせていたんですが、今は「法を盾」に同意しない地権者を強制的に立ち退かせることができる。それが新町西再開発の第一種再開発事業です。「全員同意型の再開発」など、強制執行を伴わない再開発がある中で、新町西再開発が選んだ手法は第一種再開発。まじめに営業し生活している地権者を強制的に追い出す「最悪の手法」です。

# 新町西再開発はゼネコンの仕事づくり

## 市民の負担、百三十二億円で膨れ上がる

新町西再開発事業を請け負うのは竹中工務店 大手ゼネコンです。「再開発事業はゼネコンの仕事づくりが「全国共通項」ですが、「再開発」はやめて、地元業者が請け負える公共事業を増やすべきです。

「再開発」のもう一つの「全国共通項」は、「ゼネコンが仕事をする」(建設費等の事業費がドンドン膨れ上がる)こと 新町西再開発の場合、事業費は百五十四億円で百六十八億円に その内の市民の負担分は百十五億円から百三十二億円へと、十七

## 旧動物園跡地ホールなら地権者は追い出されない まず、文化センターの耐震リニューアルを

徳島市は市民会議を設置し、十四年もかけて「旧動物園跡地のホール建設」を審議 原市長に、市民会議が最終報告書を提出していました。それを二〇〇五年十二月一日、突然踏み破り、「ホールは新町西再開発」を推進させたのが原市長 まさに市長の「独裁政治」です。

新町西再開発のホールは、「再開発反対の地権者」を追い出して建設しますが、旧動物園跡地のホールな

億円も膨れ上がっています。ホールが八割も占める：  
中心市街地活性化にならない

新町西再開発の事業目的(何のための事業か)は「中心市街地の活性化」です。しかし、ホールが八割も占める新町西再開発は、事業目的に反した「ムダな事業」です。ホールは年の内、半分程が本番中でないため閉館しているからです。「ホールで中心市街地が活性化」している例は、全国どこにもありません。

ら、地権者が追い出されることはありません。  
文化センターより古いホール  
八割が耐震リニューアル

全国には、文化センターより古く、同程度規模のホールが「十五」あります。その内の「十二(八十%)」が耐震化され、リニューアル(音響・舞台・楽屋・トイレ・客席等)で、生まれ変わっています。

### 反対する地権者の「声」

新町西再開発区域内の地権者は五十四名 その内で、まじめに営業し生活している「十名ほどの地権者が一貫して「再開発に反対」されていますが、その「声」を紹介します。

#### 正直に真面目に生活し 営業しているのに なぜ追い出すのか

私は、新町西再開発の区域から「私の店」を除外するよう、終始一貫して求めている地権者の一人です。創業して三十二年、この地に新築して十周年を迎えました。他店が八時間働けば自分は十時間働き、他店が十時間働けば十二時間働く、というように、創業して最初の十年間は無休で営業してきました。また店舗建物についても、建設業者とアメリカまで足を延ばして構想を立て、現地から部材を輸入し建築しました。ソフト面でも、他店と違った個性でやってきました。このように、自身自身で「こだわりの経営」をしてきました。

この地に居を構え、店を構えて、家族一丸となって生計を立て、子や孫まで、将来を見据えた計画で努力してきました。周りの誰にも迷惑や損害を与えたこともなく、正直に真

面目に生活し、営業活動し、むしろ地域に貢献していると自負しております。家族が幸せに暮らしているのに、なぜ、この計画に取り込まれなければならないのか？ 今まで一生懸命築き上げてきた生活権、営業権、財産権が侵害されることは許されるべきではなく、また、精神的に受けるストレスには耐え難いものがあります。この地が気に入って、愛着があり、ここで生活を成り立たせています。この開発区域に組み込まれることを拒否していますが、ここを動かなければ、(準備)組合や徳島市は私たちを、村八分のように追い出すのでしょうか？

#### 一生懸命頑張り守った 土地と創業百年の店 再開発には絶対反対

私は亡き父母に、一生懸命頑張り守った土地と創業百年の店を託された再開発事業予定地の地権者です。再開発には当初から絶対反対の立場です。再開発には問題点が多く、賛同できる絶対的な理由がない。どんなにいい条件を示されても同意しない 地権者は再開発賛成者だけでなく、当初から絶対反対の者も、私を含めてかなりいます(徳島新聞の『読者の手紙』より)